

## ミニ田園調布構想 南宇都宮駅周辺の区画整理

宇都宮伝統文化連絡協議会長 柏村 祐司



放射線状に区画された駅前の街並



レストラン等に変身した駅前大谷石蔵倉庫群

東武南宇都宮駅の北側一帯は、不思議な区割りをしている。南宇都宮駅を中心に街並みが放射状に広がる。地図を見れば一目瞭然、明らかに計画的に作ったとしか思えない区割りである。いささか大げさに言えば、東京都大田区の田園調布さながらの区割りである。

その田園調布は、大正七年（一九一八）実業家渋沢栄一らによる『理想的な住宅地「田園都市」の開発』を目的とする田園都市株式会社により大正十二年（一九二三）開発が着手された。開発の構想は、欧米の都市を念頭において田園郊外住宅地開発とそれに伴う鉄道など諸般設備の整備を重点にしたものだった。そして東急東横線田園調布駅の西側一帯は、

鉄道の利便性を考慮し駅を中心とした区割りにするために、道路を放射状に貫き、それと交差するように同心円状に配した。従来の日本の都

市にみられない欧米の先進都市に用いられた新しい区割りとしたのである。

さて、東武南宇都宮北側の住宅街であるが、整理開発が着手されたのは昭和七年、完了したのは十二年である。当時の宇都宮市は、昭和

不況のおりから脱出すべく、中心市街地の再開発を手がけていた時期である。また、この時期行政区画の変動を求めて都市計画実施の機運が高まり、さらには宇都宮周辺の村の一部にも宇都宮市編入の希望があるなど、土地区画整理と行政区変更の動きが出てきた時期でもある。

中心市街地の再開発では、不動前から池上町までの新国道の設置、宇都宮監獄の西原地内（現明保野町）への移転、東武宇都宮線の開通、宇都宮監獄移転の跡地への東武宇都宮駅の設置等がある。一方、土地区画整理と行政区画変更ではその先

は、陽西土地区画整理組合が整理開発した土地の南側に隣接する面積約八十町歩という広大な面積を対象としたものである。組合が成立したのは昭和七年七月一日である。

一方、組合の設立に先駆けて昭和六年八月十一日に東武宇都宮線が開通した。沿線には昭和七年宇都宮常設球場（現宮の原小）が設置され、合わせて野球場前駅が臨時的に開業、翌年常設駅となり名も南宇都宮駅と改められた。

陽南土地整理組合にとって南宇都宮駅の開業は、この地域の鉄道交通の利便性を高める上で願ってもないことであった。当然、陽南地区の整理開発が、新設された南宇都宮駅を念頭におかれたのは言うまでもない。田園調布が鉄道の整備と合せて住宅地の開発が行われたのと同じ構図になり、南宇都宮駅前に広がる放射状に広がる街並みは、期せずして田園調布のそれに類似したものとなったのである。そして何よりも素晴らしいのは、自動車交通の未発達

の時代にあつて道路幅を広くしたことである。お陰で上下水道や都市ガス等都市インフラがいち早く整備され、今や市内では住宅一等地、先人の先見性に頭が下がる。

南宇都宮駅前には、駅開設後大谷石蔵倉庫群が建てられた。今では大谷石蔵倉庫群が瀟洒なレストランやギャラリー等に様変わりしている。本家の田園調布にもない石造りの素敵な街並みが出来つつある。

ここで述べる地域を対象とした陽南土地区画整理組合である。陽南土地整理組合

和六年四月に設立された陽西土地区画整理組合で、それにより宇都宮第一高等女子学校（現宇都宮女子高等学校）西南部約四十町歩の区画整理が行われた。その直後に設立されたのが、